



挨拶

徳島県高等学校体育連盟
会長 藤井 敬久

高体連会員の皆様の日々の献身的なご尽力が、本県高校生の体育・スポーツの振興や競技力の向上、人材育成に繋がっていることに心より感謝申し上げます。また、本県高体連の諸事業に対し、深いご理解とご協力を頂いていることに厚くお礼申し上げます。

さて、今年は「走れ北信越の大地をとべ北信越の大空へ」のスローガンのもと、全国高等学校総合体育大会「輝け君の汗と涙 北信越総体2021」が7月24日から8月24日の間、福井県、新潟県、富山県、石川県、長野県の北信越5県と和歌山県で開催されました。本県からは県大会や四国ブロック大会の厳しい予選を勝ち抜いた642名の選手・監督の皆さんが参加しました。

今回の大会では、団体の陸上競技男子フィールドで生光学園高校が優勝、総合でも3位に入るなど、全国トップレベルの活躍を見せてくれました。また、男子ソフトボールで徳島科学技術高校が5位、男子自転車チームスプリントで小松島西高校が8位と大健闘しました。個人においては、陸上競技男子円盤投で生光学園高校の小宮路大隼君、ウエイトリフティング男子61kg級スナッチで徳島科学技術高校の増本快斗君が優勝の栄冠に輝きました。この他にも、陸上競技、ウエイトリフティング、レスリングであわせて8種目、9名が入賞を果たし、全国の舞台で大きな成果を挙げました。

また、広島県では、全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会が開催され、本県から31名の選手・監督の皆さんが参加しました。団体ではビームライフルで、男子は小松島高校が準優勝、女子は城南高校が4位、エアライフルで、男子は小松島西高校勝浦校が6位、城南高校が6位と、出場したすべてのチームが入賞するという、素晴らしい成績を残しました。また個人では10メートルエア・ライフル立射40発競技において、城北高校の元木将人君が優勝の栄冠に輝きました。この他、ビームライフル、エアライフルあわせて4名が入賞を果たし、本県のお家芸といわれる競技で大きな成果を残しました。

さて、コロナ禍で1年延期となった東京2020オリンピック競技大会は17日間の日程をすべて終えて8月8日夜、閉幕しました。緊急事態宣言下で無観客開催となった異例の大会は、選手や関係者間の感染も抑制され目立った混乱もなく閉会しました。日本は史上最多となる58個のメダルを獲得するなど、選手たちは目覚ましいパフォーマンスを見せてくれました。一方で、国内では新型コロナウイルスの感染が急拡大し、大会関係者の感染者が相次ぐなど、コロナの影響が否めない大会でもありました。安全で安心な大会が実現されたのか、今はまだそれを評価するのは難しくオリンピックをめぐる賛否が分かれましたが、私たちが気付いたものは、単に順位を競うだけでなく、さまざまな違いを乗り越えてお互いを尊重し、自分のベストを追求するという姿勢。新型コロナによって問われたオリンピックやスポーツの意義、そして、コロナに覆われる社会が見失っていた「いがみ合う」ではなく「たたえ合う」ことの大切さを、思い出させてくれた瞬間でもありました。

そして、2022年は、「燃え上がれ我らの闘志四国の大地へ」のスローガンのもと、全国高等学校総合体育大会「躍動の青い力 四国総体」が7月23日から8月23日の間行われます。本県は開会式と6競技が実施されます。毎年、高校生最大のスポーツの祭典であるインターハイは、全国の高校生アスリートがその出場を目指し、汗や涙を流して日頃の部活動や大会に臨むとともに、大会や競技運営を支える地元高校生や大会運営等を行っていただく役員の皆さんが、出場する選手たちが思う存分力を発揮できるように、準備し支えることによって、多くの感動が生まれ、そして多くの人に感動を与える大会となります。現在、本県においても各専門部門等、令和4年のインターハイ開催に向けて着実に準備を進めています。また、2023年の全国中学校体育大会の四国開催についても動き始めているようです。このような中で、体育・スポーツの大きな風が今後、今まで以上に吹くことが予想されます。この風を「追い風」として、我々関係者が一体となり体育・スポーツの振興・普及・強化、更には、体育・スポーツを通じた人材育成に共に汗を流さなければならないと思います。

本連盟では、現状を十分に把握するとともに未来を切り拓いていく子どもたちのために誠心誠意取り組んでいくつもりです。また、体育・スポーツを通じた人間形成の中で、フェアな精神で規律を重んじ、相手を思いやることのできる自立心と心身共に健全な子どもたちの育成に努め、環境整備にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後ともご協力の程よろしくお願いいたします。

最後に、県教育委員会や県知事事務局をはじめ関係機関と会員の皆さんのご協力・ご尽力に敬意を表しますともに厚くお礼申し上げます。また、原稿をお寄せいただいた皆さんに感謝いたしまして高体連誌の発刊のあいさつとさせていただきます。



高体連誌発刊によせて

徳島県教育委員会体育学校安全課
課長 吉岡直彦

徳島県高等学校体育連盟会員の皆様には運動部活動をはじめ、本県高等学校における体育・スポーツ振興の推進役として、各競技会や研究活動の普及と発展のために御尽力をいただいておりますことに、敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、令和3年度の高等学校競技スポーツを振り返ってみますと、全国高等学校総合体育大会（輝け君の汗と涙 北信越総体2021）において、団体では徳島科学技術高校男子ソフトボール部が5位、生光学園高校が陸上競技（男子フィールド）で1位、（男子総合）で3位と、2競技の入賞となりました。個人でも、ウエイトリフティング、レスリング、自転車競技、陸上競技、ボクシングで19種目の入賞を果たし、徳島県代表として全国総体の舞台で強豪を相手に堂々とした戦いぶりを見せてくれました。

また、同時期に開催されました全国高等学校ライフル射撃選手権大会では、団体ビームライフルで小松島高校男子が2位、城南高校女子が4位、団体エアライフル立射で城南高校男子が6位、小松島西高校勝浦も6位、個人でも小松島高校が男・女ビームライフル、城北高校が男子エアライフル立射、小松島西勝浦も女子エアライフル立射で入賞を果たし、こちらも9種目の入賞となりました。

これらの成果は、コロナ禍における活動で、様々な課題と直面する中、生徒の皆さんの努力はもちろんですが、毎日の練習の中で生徒の才能を磨き、チームワークを高め、全国の舞台で最高のパフォーマンスを引き出した指導者の皆様の熱心な取組みの賜であります。携わっていただいた全ての関係者の皆様に対しまして深く感謝を申し上げますとともに、今後も一層の御指導・御協力をお願い申し上げます。

一方、学校教育においては、平成30年告示の新学習指導要領が令和4年度入学生から年次進行により適用されることとなるところです。保健体育科においては、「心と体を一体として捉え、生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの継続」が重視されており、生涯にわたって継続して運動に親しむことができるよう、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の育成を重視するようになっております。さらに公正、協力、責任、参画、共生などの社会的態度を養い、スポーツの文化的価値などに対する理解を深め、現在及び将来の実生活や実社会で計画的、継続的に運動やスポーツを実践するための資質・能力を育む指導の充実が求められています。「健やかな体」を育成し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続することができる資質や能力を育てるために、学校教育活動全体において、体育・健康に関する指導を充実させ、全ての生徒の体力向上と健康増進を図る取組みをお願いいたします。

令和4年度は、いよいよ「躍動の青い力 四国総体2022」が開催されます。高校生の皆さんには「する・見る・支える・知る」といった、スポーツへの多様な関わり方を実践していただき、徳島県代表として各競技に出場される選手の皆さんはもちろん、総合開会式出演・大会運営・高校生活動・ボランティア等として、全国から集まるアスリート達との交流の輪を広げてください。本県が主催県として51年ぶりに行われる高校生アスリートの祭典を是非楽しんでいただきたいと思います。

結びとなりますが、徳島県高体連会員の皆様には、本県の未来を支える高校生の心身ともに調和のとれた健全な発達と、高校スポーツの充実・振興のため、一層の御支援・御協力をお願いいたします。

徳島県高体連の今後益々の御発展を祈念申し上げまして、高体連誌発刊に寄せる言葉といたします。